

◆ 雪かき ◆

普段雪に慣れている地域ではこの程度の雪では驚かないのだろうけれど、関東では大変だ。

朝から、車が立ち往生したニュースや「雪で転ばない歩き方」等の話題が飛び交い、普段は雪が少ない地域での脆弱性があらわになる。

本校近辺も4年ぶりの大雪に見舞われた。学校の状況はどうだろうかと、心配しながらの出勤。校舎周辺を見回ったが、大きな被害がなく一安心。こんな時でないと感じる事ができないであろう、冬の「凜とした感じ」を全身に感じる。「冬はつとめて。雪の降りたるは、言うべきにもあらず。…」を実感する一時となった。

さて、そうこうするうちに、先生方と生徒の皆さん、用務員の皆さんが除雪用具を持って出てきた。

ザクッ、ザクッという小気味よい音がする。私もスコップを持って加勢する。大部分凍っていたけれども、生徒の動線だけは何とか確保することができた。皆さんに感謝。



学校周囲を見渡すと、まだ一面の雪景色。冬空の青との鮮やかなコントラストがなんとも美しい。

伊勢正三さんの作品に、『そんな暮らしの中で』というものがある。

「2センチ足らずの雪が 科学の街東京を 1日でぬりかえる…」

今回の雪は、「2センチ」どころではなかったけれど、まったくそのとおり。そして、またあつという間に筑波おろしが吹く日常に戻るのだろう。

「…寒さの中にかくれているのは 暖かさなのだから」（『そんな暮らしの中で』）

今年初めてのメッセージもまた音楽の話題からになってしまった。

学校には、いろいろな暖かさがある…。子どもたちと先生方の白い息に、そんなことを感じた冬の一時であった。